





テレホン法話

## スイマーの涙

## 萩野公介選手のこと

皆様は、萩野公介という水泳選手をご存知でしょうか。二〇一六年のリオ・オリンピックの四百メートル個人メドレーで金メダルを獲得した選手です。しかしその後、右肘の手術等のため成績が伸び悩み、東京オリンピックでは、二百メートル個人メドレーで決勝に進出したものの六位に終わり、メダルを取ることができませんでした。そして、二〇二二年の十月二十四日には現役引退を発表し、選手生活を終えました。

萩野選手は、東京オリンピックの二百メートル個人メドレー、準決勝で決勝進出を決め、号泣していました。私はその姿を見た時に、リオ・オリンピックで頂点に立った萩野選手が、この五年間で味わった栄光と挫折の軌跡を思い、本当に感動してしまいました。

萩野選手は準決勝のレース後のインタビューで、次のように話していました。「たくさんの方の応援があって、ここまで来れたと思います。自分らしい泳ぎで恩返しできればいいなと思って、一心に泳いだら、こんなにすごい贈り物をいただいた。本当に幸せです。もうあと一本泳げる、また平井先生の前で泳げる、これ以上の幸せはないです」と。リオ・オリンピックが終わった時点では、東京オリンピックでの連覇は、当然のことと、萩野選

手は思っていたはずですが、ところが、オリンピック後の九月に古傷の右ひじを手術。それをきつかけに本来の泳ぎが崩れ、記録は低迷していきました。そして、とうとう二〇一九年二月の大会で、萩野選手は400メートル個人メドレーで、自己ベストを十七秒も下回るタイムを出してしまいました。そして、平井コーチに「水泳がつかいにくいです」と初めて本音を話し、無期限の休養を発表します。そして、一人でヨーロッパへの旅に出たのです。

萩野選手が、旅先で人々の温かさに触れたり、本当の自分と向き合うことを通して行きついた答えは、水泳を「ここで終わりにしたくない」ということでした。プールを離れてから約半年後、萩野選手は実戦に復帰しました。

## 自力は必ず行きづまる

しかし、東京オリンピックまでの時間がなくなってゆくのに、なかなかタイムは上がりませんでした。以前の萩野選手は、他人には関心がなく、人に気を配ったりすることは、全く必要がないことだと思っていたといえます。しかし、その時に、ふがいない自分を温かく迎えてくれるチームメイトがいてくれること、迷惑をかけ続ける自分を、見捨てないでいてくれる平井コーチがいてくれることを、初めて有り難いと思うことができたそうです。人には関心がなかった萩野選手が、「今の自分は一人じゃないです。その人たちのために、いい泳ぎをしたいな」と言えるようになったのです。自分の才能と努力だけをあてにする道は、いつか必ず行きづまります。萩野選手は、その時初め

て自分を支えてくれていた方々の存在に気づき、感謝することができた。それが準決勝のレース後の言葉となったのでしょう。泳ぐことが辛かった萩野選手が、泳げる幸せと他者への感謝に目覚めたのです。「泳げるだけで幸せ」。それは競技の結果や人の評価を気にする必要のない他力の世界に触れたということでしょう。

萩野選手は、東京オリンピックで金メダルを獲得することはできませんでした。しかし、決勝のレースの後、長年のライバルであり、友人でもあった瀬戸大也選手と抱き合う姿を見て、私は人生の金メダルを彼にかけてあげたい気持ちになりました。萩野選手、長い競技人生、本当にお疲れ様でした。(令和三年十一月のテレホン法話より)

## 慶哉、日知(はると)成長

法園寺の孫長男  
・慶哉(けいや) 写真右)と二男・日知(はると)写真左)は、スクスクと成長しています。

慶哉は、今年の三月一日現在で、満三歳四ヶ月、日知は、満一歳となりました。慶哉は四月から弥彦村立二松保育園に入園することとなりました。とても元気です。日知は、愛らしい笑顔を振りまいています。皆様よろしくお願ひ申し上げます。



**令和五年** 詳しくは後日ご案内をお届けします。  
**慶讃法会団体参拝旅行** 参加者大募集

宗祖親皇聖人御誕生 八五〇年 立教開宗 八〇〇年  
 聖徳太子一四〇〇回法要 第三十三代真覚門主伝灯奉告法要

# 御本山 佛光寺

【慶讃法会】参拝と

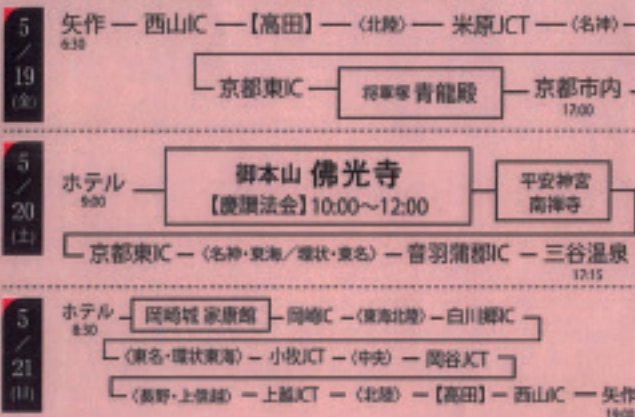
京都・三谷温泉の旅

2泊3日

期日/令和5年

5月19日(金)  
 ~21日(日)

旅費 70,000円也  
 募集 30名  
 (定員に成り次第ぐ切)  
 申込金 10,000円  
 (旅費充当)



緑風荘  
 TEL 075-341-7201



ホテル 明山荘  
 TEL 0533-88-4641

ご法事のお申し込みは  
 お早めに!

令和四年年忌表	
一周忌	令和三年 (百回忌まで)
三回忌	令和二年
七回忌	平成二十八年
十三回忌	平成二十二年
十七回忌	平成十八年
二十三回忌	平成十二年
二十七回忌	平成八年
三十三回忌	平成二年
三十七回忌	昭和六十一年
五十回忌	昭和四十八年
百回忌	大正十二年

あながき

本年三月に坊守の父で、大阪府堺市・報恩寺の前住職・寺田宗信様が、行年九十二歳で逝去されました。お元氣な時は、ご夫婦でよくこちらにも来ていただいたので、本当に残念な気持ちで一杯です。筆まめな方で、よくお手紙もいただきました。亡くなってしまわれると、改めて人柄の素晴らしさに気づかされます。身近な方が亡くなられると、その方から自分のこれからの生き方が問われているような感じがします。(住職記)

今年の主な行事

- 2月15日 涅槃会 (中止)
- 3月21日 春彼岸中日法要
- 3月24日 法圓寺仏教婦人会總會 (中止)
- 5月14日 仏教会花まつり (中止)
- 6月12日 御巡教 (法圓寺会場)
- 6月26日 法圓寺世話方会議
- 7月7日 へびお講
- 7月18日 法中講 (称名講)
- 8月1日,7日 盆参会
- 8月13日 墓参
- 9月23日 秋彼岸中日法要
- 10月6日 ご本山差し向け布教
- 11月17,18日 法圓寺報恩講
- 12月31日 除夜の鐘 (14時より)